

第2回神戸川の河川環境に関する専門委員会 議事要旨

【日 時】 平成24年9月30日(日) 13:00～16:10

【場 所】 朱鷺会館 1階 大ホール

【出席者】 別紙出席者名簿のとおり

【傍聴者】 44名

【内 容】

■議事

- (1) 前回の委員意見の対応について
 - (2) 神戸川の正常流量について
 - (3) 来島ダムからの放流量の検証について
 - (4) 神戸川の水質について
 - (5) アンケート調査について
- 国土交通省、中国電力、島根県より説明。

(質疑応答)

- ・志津見ダムから馬木地点までの水の到達時間は、国土交通省の説明では12時間、中国電力の説明では17時間と5時間の差があるが、これはなぜか。(檜谷委員)
⇒最低12時間としている。資料でいくと約15時間であるため、少し幅がある。(国土交通省)
- ・到達時間は流量によっても違うと思うが、中国電力がやっているような予測計算を行っているのか。(檜谷委員)
⇒そうではない。あくまで馬木地点で4.4m³/sを不足すると志津見ダムから放流する。(国土交通省)
- ・今後志津見ダムの放流は、中国電力がやっているような方法を検討するのか。(檜谷委員)
⇒志津見ダムと来島ダムの放流運用方法の違いについては、どの様になっているのか、検証してお示ししたい。今後の考え方等あれば国交省の方からお示ししていただくようにしたい。(島根県)
- ・資料3-3 P10の馬木地点での確保流量の不足日数の表の中で、不明となっている期間があるが、欠測となっている場合はどの様な運用をしているのか。(檜谷委員)
⇒資料が紛失しているという話も聞いているため、国土交通省や中国電力の資料を確認し、再現する方法も考えて、どの様に分析するかお示ししたい。(島根県)
- ・資料3-2 P3の志津見ダムの運用実績について、馬木地点の流量が目標を大きく上回っているが、これは志津見ダム運用後の運用実績ということでしょうか。(野中委員長)
⇒運用後の実績である。(国土交通省)
- ・相対的にみると水質は概ね環境基準を達成しているということであるが、流量との関係をこれまでのデータで検討できたのか。あるいは今後検討できるのか。(中村委員)
⇒流量との関係については検討して参りたい。(島根県)

- 全窒素について、全窒素は全地点において年平均0.5mg/l程度で推移しているとのことであるが、この値はP9の環境基準では、富栄養と貧栄養の限界値が0.15～0.20mg/l程度となっているように、0.5mg/lは決して安心できる数値ではない。(清家委員)

- SSあるいはBODについて、測定値と測定された日時が分かれば、流速や流量等と対応させることができるのではないかと思っている。対応できるのであれば、もっとはっきりとした結果が出るのではないか。(中野委員)
⇒国土交通省にどういうデータがあるのか突き合わせて、次回以降にお示しできるよう検討したい。(島根県)

- 正常流量について、例えばアユの生育のための正常流量についても色々な考え方がある。もう一度本当にアユの生育のための正常流量がどれくらい必要かどうか検討する必要があると思っている。たえず正常流量が本当にそれでいいのか検証はすべき。(中村委員)
⇒河床の変化について実態調査し、水深等の確認は行っているが、正常流量の検証はやっていない。すぐにお示しすることはできないが、今後検証していくべきと考えている。(国土交通省)

- 今すぐにという話ではないが、将来的にはそういったことを考えておかないといけない。(中村委員)

- 第1回の現場視察で初めて神戸川を見させていただいた。先日、石を採取してもらい分析を行っているところである。分析結果については、次回か次々回にお示ししたい。(中野委員)

- 資料-1の委員意見の対応について、発言者をA、B、C委員として記載しているが、委員としてある程度責任を持って発言しているので、名前でもいいと思うため検討していただきたい。(中村委員)
⇒委員の方々がよろしければ名前を記載する。(島根県)